



報道関係各位



公益社団法人企業情報化協会

2025年2月12日

公益社団法人企業情報化協会

—NEWS RELEASE—

## 2024年度IT賞「Super SE 100人衆（優秀個人表彰）」 第11期 5名の受賞が決定

公益社団法人企業情報化協会（通称：IT協会）では、2024年度「第42回IT賞」受賞企業の中から特に顕著な活躍・貢献をしたと思われる個人5名を選出し、このほど第11期の「Super SE100人衆」として表彰しました。

IT協会では平成26年度より毎年2名から10名程度をめぐりSuper SEを選出しております。

今年度Super SE 100人衆として表彰された5名は、2024年度IT最優秀賞ならびにIT優秀賞を受賞した企業より選出されました。選出された5名は以下の通りです。

また、2025年1月30日(木)に開催された「第40回IT戦略総合大会（ITMC2025）」会期内の2024年度IT賞表彰式典にて表彰式が行われ、表彰盾が各人に授与されました。

| 会社名              | 氏名    | 所属/役職                                      |
|------------------|-------|--|
| 日本たばこ産業株式会社      | 鈴木 翔太 | Tobacco IT 部長                              |
| 西日本旅客鉄道株式会社      | 柳原 毅暢 | システムマネジメント部 CCoE・モダナイズグループ 課長代理            |
| SOMPOシステムズ株式会社   | 雪吹 泰伸 | 危機対応部長                                     |
| ニッセイ情報テクノロジー株式会社 | 後閑 強  | ヘルスケアソリューション事業部 医療ソリューションブロック<br>上席スペシャリスト |
| 企業年金ビジネスサービス株式会社 | 福島 宏行 | 情報システム部 部次長                                |

※順不同・敬称略

## ◆Super SE100 人衆とは

---

- IT 賞受賞企業からの人材候補者の推薦をベースに選定。人材候補は自社社員に限らず IT 推進のパートナーからも選出します。ただし、事業や企業の経営者の地位・役割ではなく、IT 関連の実務家として卓越している人材を推薦するという視点から選定しました。
- Super SE 選出には毎年 5 名～10 名をめどに行い、対象者の数を増やしていくことを目指します。なお、ある程度の蓄積が得られたら、IT 協会において「IT 上質人材像」の具体化のための研究に結び付けていきます。
- また、受賞者の推薦理由を IT 活動領域とタイプ別のマトリックス（推薦シート）の上にプロットし、どのような行動様式や思考様式を持った人材がどのような業績をあげるかという関係性を分析します。これによって、現実的かつ経験的に辿ることができる卓越人材のスキル特性を描写することを最終目標とします。

## ◆Super SE100 人衆選考の視点

---



- 1) ビジネスやマネジメントに関する独自の視点やアイデアの発揮
- 2) 企業価値、商品価値向上に資する IT 活用アイデアの提供と具現化
- 3) 顧客もしくは自社における新たなビジネス創出への関与と貢献
- 4) ユーザーの業務に対する本質的な理解
- 5) 安全・安心・コンプライアンスの遵守への貢献
- 6) プロジェクトマネジメントスキルおよびリーダーシップ
- 7) IT の動向や活用に関する理論・技術への見識と適用

※人材像を理想型として描く時には往々にして期待される全ての特性や能力を備えた「スーパーマン」を求めるような議論になりがちであるが、ここでは上に述べた七つの視点の全てを兼ね備えた「幻の人材」を探し求めるのではなく、七つの視点（七芸）の中の一芸・二芸・三芸に秀でた実在する人材を探し、そこから理想型としての理想人材を想定することを考えました。

## ◆IT 賞とは

---

IT 賞は、わが国の産業界ならびに行政機関などの業務における事業創造、効果的ビジネスモデルの構築・促進、生産性向上等、“IT を高度に活用したビジネス革新”に顕著な努力を払い成果を挙げたと認めうる企業、団体、機関および個人に対して、公益社団法人企業情報化協会が授与するものです。

このたび、2024 年度 IT 賞審査委員会（委員長：萩野 達也 慶應義塾大学 名誉教授）において、厳正な審議のもと、36 件の受賞が決定しました。

詳細はこちら

<https://jiit.or.jp/awards/it/>

## ◆IT 賞表彰式典・受賞記念講演（IT 戦略総合大会）について

---

- 名称 : 「第 40 回 IT 戦略総合大会（ITMC2025）」  
2024 年度 IT 賞表彰式典・受賞記念講演会
- 日程 : 2025 年 1 月 30 日（木）・31 日（金）（IT 賞表彰式典は 1 月 30 日に開催）
- 主催 : 公益社団法人企業情報化協会（通称：IT 協会）
- 会場 : ザ・プリンスパークタワー東京（オンライン/オフラインによるハイブリッド形式）



## ◆公益社団法人企業情報化協会（IT 協会）について

---



- 名称 : 公益社団法人企業情報化協会（通称：IT 協会）
- 会長 : 山内 雅喜（ヤマトホールディングス株式会社参与）
- 設立 : 1981 年 7 月 16 日
- 会員数 : 約 220 社
- 所在地 : 〒105-0011 東京都港区芝公園 3-1-22 日本能率協会ビル 3 階
- 電話 : 03-3434-6677
- URL : <https://jiit.or.jp/>

## 2024 度 IT 賞「Super SE 100 人衆」受賞者と選考理由

| 受賞者名(敬称略)   | 会社名                   |
|---|-----------------------|
| <b>鈴木 翔太</b>  | <b>日本たばこ産業株式会社</b>    |
| <p>鈴木さんは、Espoir の構想段階からプロジェクトの中心メンバーとして参加し、卓越したリーダーシップを発揮し、プロジェクトの成功に大きく寄与しました。</p> <p>具体的に、主に以下のような貢献がありました。</p> <p>関係者巻き込みと体制構築：プロジェクトのスコープが非常に広範であったことから、プロジェクトの初期段階から、多くの関係者と適時適切にコミュニケーションし、業務メンバーの巻き込みに尽力され、プロジェクトを成功させるための体制を構築することができました。また、グローバルとの調整に関して、日本側の総合窓口として活躍しました。</p> <p>問題解決：5年間にわたるプロジェクトの中で、多くの課題や問題に直面しましたが、その都度、状況や原因の把握に努め、周囲と協力しながら対策を実行することで、プロジェクトを停滞させることなく進めることができました。</p> <p>タスク実行とサポート：定期的な社内ミーティングを通じて、タスクの実行状況を把握するとともに、社内の情報連携を効率的に実施していました。また、オンサイトでの様々な活動について、海外メンバーを含めて多くの関係者が東京オフィスに集まりましたが、適切なサポートを実施していました。</p> <p>これらの貢献により、プロジェクトは予定された期間内に収まり、予算内での達成が可能となりました。鈴木さんのリーダーシップと献身的な対応は、プロジェクトの成功に大きく寄与したと言えます。</p> |                       |
| <b>柳原 毅暢</b>  | <b>西日本旅客鉄道株式会社</b>    |
| <p>JR 西日本グループデジタル戦略における3つの柱の1つである「顧客体験の再構築」の技術側のキーパーソンとして、コンシューマ向けシステム全般を取り仕切っている。これまで、会員管理システムや鉄道ネット予約システム（e5489）、コールセンターシステム、ICOCA システムなどの刷新にかかるプロジェクトマネジメントを歴任し、すべての仕様の細部まで精通している。その実績をもとに、2023 年春に使用開始した共通基盤サービスである「グループ共通認証基盤、ポイント管理、データ分析システム」の構築、同時期に新サービスとしてスタートした「モバイル ICOCA」の構築、ポイント利用の目玉コンテンツとなる「e5489 の刷新」におけるリードアーキテクトとして、プロジェクト全般に深く関与し、ローンチを成功に導いた。</p> <p>とりわけ、今回、IT 最優秀賞を受賞した WESTER アプリを運営するうえでの土台となっている大規模基盤の構築を、品質高くマネジメントすべく、接続、統合するグループ会社の各システムの改修スケジュールにまで細やかなケア、配慮を行き届かせ、コミュニケーションを密にとりながらスケジュール遅延リスクを予兆段階から把握、対策を講じる等、その手腕は他の模範となるものである。</p>   |                       |
| <b>雪吹 泰伸</b>  | <b>SOMPOシステムズ株式会社</b> |
| <p>システム障害はゼロにはできないという前提で、障害発生時の早期検知・早期復旧による影響極小化を目指す組織として3年前に危機対応部を新設した。当部立上げ時からメンバーとして所属し、損保ジャパンのビジネス部門とシステム開発部門とのコミュニケーションハブとして、またシステム障害対応全体の司令塔としての機能を高いレベルで実現してきた。これにより、適時適切な情報からビジネス部門はユーザー対応に注力し、システム開発現場は障害復旧作業に集中することができ、障害の早期復旧とユーザーへの影響の極少化に貢献できている。障害発生の際、ネットワーク良く現場に駆け付けることを繰り返しながら、多くのシステムやステークホルダーと関わることで、当部および当社のシステム障害の早期復旧に向けた基本行動を作り上げ、定着させたことは、当人の類まれな情熱とネットワークの良さがなければ実現できなかったものである。その実績もふまえ、立上げ後1年で部長に昇進したが、ひとたび障害が発生するとメンバーとともに開発現場に向かい、お客さま影響・ビジネス影響の確認、ステークホルダーへの連携など、率先垂範型のゼネラルマネージャーとして、スピード感ある対応を組織としても実践できている。複数の開発本部に跨る障害でのヨコグシ機能、重要なシステム開発案件リリース時の万一の障害発生に備えた待機態勢、平時には当部</p>  |                       |

への短期留学制度を含めた障害対応力向上施策推進、など開発現場から頼られる組織を作り上げた。危機対応部という組織とその役割および活動内容は新たなビジネスモデルといえる取組みであり、それを実現した中心人物である。また、「危機対応部メンバーの心構え（プレゼン資料内に記載）」に基づく前向きな障害対応を自ら実践することでメンバー全員にも定着しており、障害対応というストレスがかかる業務を担う部署でありながら社員のエンゲージメントスコアが極めて高いことも当人の明るく前向きなマネジメント力によるものである。

**後閑 強**

**ニッセイ情報テクノロジー株式会社**

＜プロジェクトの内容＞

全国統一規格の診療報酬データ(DPC 調査データ)や様々なオープンデータを用いて、各病院の診療行為実績や将来の医療需要推計を可視化することで、病院経営において根拠に基づいた「経営改善のための意思決定」と「医療の質向上」を支援する、データサイエンス基盤（MEDI-ARROWSⅢrd）を開発した。

＜役割・実績と成果＞

MEDI-ARROWSⅢrd 開発プロジェクトの分析機能領域リーダーを担当。本プロジェクトの計画から構築、サービスインまでの全フェーズを主導した。

・病院経営分野の国内第一人者や病院の経営層の方々などにも協力を仰ぎ、専門家の病院経営に関する知見を集約。病院独自の要素を経営分析の各手法に落とし込み、製品機能に反映したこと。

・本基盤で実装した分析手法の一部は特許出願中であるなど、従来の枠にとられない独自の視点やアイデアを製品機能に多数盛り込んだこと。

・大規模なデータを高速に処理するアーキテクチャを実現すると共に、内閣府のガイドラインに準拠した匿名加工処理を施し安全性を高めるなど、病院が安全に活用できるデータサイエンス基盤を実現したこと。

**福島 宏行**

**企業年金ビジネスサービス株式会社**

従来、2つの陣営に分かれて運営されていた生命保険会社における企業年金の制度管理事務を当社（企業年金ビジネスサービス、以下「CPBS」）に統合・集約し生保7社の共通プラットフォームを構築したプロジェクトに参画。移行領域のリーダーとして本プロジェクトを成功に導いた最大の功労者。

本プロジェクトは、お客様の大切な年金記録、それを支える事務を安全に移行することが最重要であり、それに向けては移行対象となった4生保の企業年金契約、約6,000契約、約90万人の膨大なデータを正確かつ計画されたスケジュール内に移行することが求められた。CPBSが扱う確定給付企業年金は、年金給付体系等が企業ごとのオーダーメイドで設計できる仕組みになっており、多種多様な制度の管理が必要なこと、加入から給付環境まで極めて長期間のデータの管理が必要なこと等から、その事務・システムは複雑で難易度が高く、それを扱うためには高い専門性と熟練した経験が必要とされている。とりわけ本プロジェクトでのデータ移行にあたっては、移行前後で年金給付額に影響が出ないように正確にデータ移行する必要があるが、システム的な突合検証ができない複雑なケースも多く、1件ごとのハンド検証も必要となる中、その作業は困難を極めた。そのような状況下、長年に亘る企業年金の業務・システム開発経験から業界でも屈指のノウハウを保有する人材として、苦難な状況にも決してあきらめることなく、全件移行を計画どおりやり抜き、生保7社統合を実現させた最大の功労者として Super SE100 人衆に相応しい人物として推薦する。

以上

本件に関するお問合せ

公益社団法人企業情報化協会(IT協会) IT賞事務局

E-MAIL : info@jiit.or.jp

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-1-22 日本能率協会ビル 3階

TEL : 03-3434-6677 FAX : 03-3459-1704